

知多地区家庭教育支援チーム “ NPO 法人 Smiley Dream ”

(1) 活動主体（チーム）について

①チーム名 (呼称)	武豊町家庭教育支援チーム (呼称： <u>SmileyDream</u>) URL： <u>https://www.smileydream-web.net/</u>
②活動拠点	NPO 法人 SmieyDream（愛知県知多郡武豊町六貫山 3 丁目 84 番地）
③活動範囲	愛知県（主に知多半島全域）
④組織体制	<u>14</u> 人 社員 12 名 幹事・顧問各 1 名 他スタッフ等
⑤活動開始年度	<u>平成 13(2001)年度活動開始</u> <u>平成 21(2009)年 NPO 法人化</u>
⑥問合せ先 【公表可能な連絡 先】	(部署・氏名等) 理事長 藤野由香梨 (TEL) 090 - 5145 - 2720 (E-mail) hs@taketoyo-kosodate.info

(2) 活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	☒保護者等への学びの場の提供 ☒保護者等への地域の居場所づくり ☒アウトリーチ型家庭教育支援（※保護者の居場所に出向いて届ける支援） ☒自宅に届ける支援（情報提供、相談対応等） ☒保育所・幼稚園・学校等に届ける支援（情報提供、相談対応等） ☒その他の保護者に届ける支援（情報提供、相談対応等） □その他（ ）
②活動対象 (複数チェック可能)	☒乳幼児 ☒小学生（低学年） ☒小学生（中学年） ☒小学生（高学年） ☒中学生 ☒高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施
③活動内容	【具体的な活動内容】 ①児童虐待防止活動 2001年に武豊町で起こったネグレクトによる児童虐待死亡事件を機に団体を立ち上げ、以降「キッズフリーマーケット」「Mamaふえすた」「オレンジファミリーフェス」と時代に合わせた遍歴をたどり、オレンジリボン活動として20年以上継続している。近年は地元企業からも多くの協賛を得られ、行政担当課と協働で年に1回開催をしている。 昨年は耳が不自由な団体の提案により、各ブース任意で手話や筆記によるサポートの提示を行った。児童虐待防止だけではなく、地域でのインクルーシブを目指したイベントと認知されつつある。今年度が児童虐待防止イベントとしては20回目となった。   ②家庭訪問型子育て支援事業「ホームスタート」 令和2年度より2年間は愛知県「家庭訪問型子育て家庭寄り添い支援モデル事業」として、令和4年度からは武豊町委託事業として実施。子育て支援課を主管課とし、ボランティアが自宅訪問、公共施設への同行など保護者への寄り添い支援を行っている。子育て当事者のエンパワメント力を高めることが目的であり、対象は初期の乳幼児家庭から、現在は外国にルーツのある家庭、妊娠期家庭まで拡大し活動を行っている。

ながらおしゃべりをしたり、パンを持ち寄って食べ比べをしたり、勉強のために講座を開いたり、時には本法人の事業のお手伝いをしてくれたり、きっちりと予定を立てず実施している。



(左はサークルに來始めたころ。右は中学入学の報告にきてくれた様子)

⑤家庭教育講座の企画運営・講師派遣

町外の自治体の家庭教育講座の企画運営、家庭教育を実施している団体のサポートを行っている。また、武豊町では年5回開催する子育てリフレッシュ講座の企画運営を行っている。愛知県教育委員会家庭教育研修会講師として小中学校 PTA や教員向けに講師を派遣している。また、自主事業として子育てサークルや保護者からの依頼にも安価で講師を派遣している。



(東海市家庭教育講座の様子)

⑥おとなトこどもノゆるりサークルによる居場所事業

居場所を求める子供や、子供が不登校で悩む保護者に寄り添うため、定期的な居場所の開催を行っている。どちらも週1回程度の開催。主体性・自主性を尊重し、学びから自立を促すことを目的に、安心安全な居場所の提供を行う。保護者には日常的な親子の関わりや学校との関係をサポート、「子どもの自主性を尊重する学び」に対する学習をすることを目的に、SNS での日常的な情報交換や講習会参加、他の居場所の見学等を行っている。



(肉まん作り、遠足、スポーツ体験の様子)



(テント設営、進路お話会の様子)

⑦おもちゃ図書館・セレモニー衣装の無料貸し出し

不要となったおもちゃの提供を受け、1回2点まで2週間の貸し出しを行っている。リピーターも多く、子育ての相談を受けることが多いため、支援の紹介につながることもある。孫を連れた祖父母が来られることもあり、子供の年齢に合ったおもちゃの紹介や、現在の子育て事情などをお伝えしている。

セレモニー衣装の無料レンタルでは、1度しか使わないイベント衣装の購入や家庭事情で購入できず、辛い思いをする家庭をなくすために行っている。家庭事情について相談を受けることもある。



⑧育児休業中の子育て支援・女性活躍推進事業

育児休業を取得している家庭を対象とした講座の開催。LINEグループを運営し、受講者の復帰後のサポートも行っている。また、受講者で女性であるが故の不当な扱いを受けた方の相談対応も行っている。講座開催を機につながりのできた7企業の人事担当者と、定期的に情報交換会を開催している。

◇東海市女性・子ども課 育児休業中の子育て支援事業

年2クール6回の連続講座 第1子育児休業中の女性が対象

託児付き 20組(2回は父親も参加)

仕事復帰に向けての支援事業

ワークライフバランス(夢・仕事・家事・子育てのバランス)

⑨拠点運営

平日の9～15時を自主運営で開所している。困りごとをたらいまわしにしないため相談のワンストップ窓口として機能している。どのような相談も受けており、本法人で対応ができないものについては、各種連携関係機関を紹介

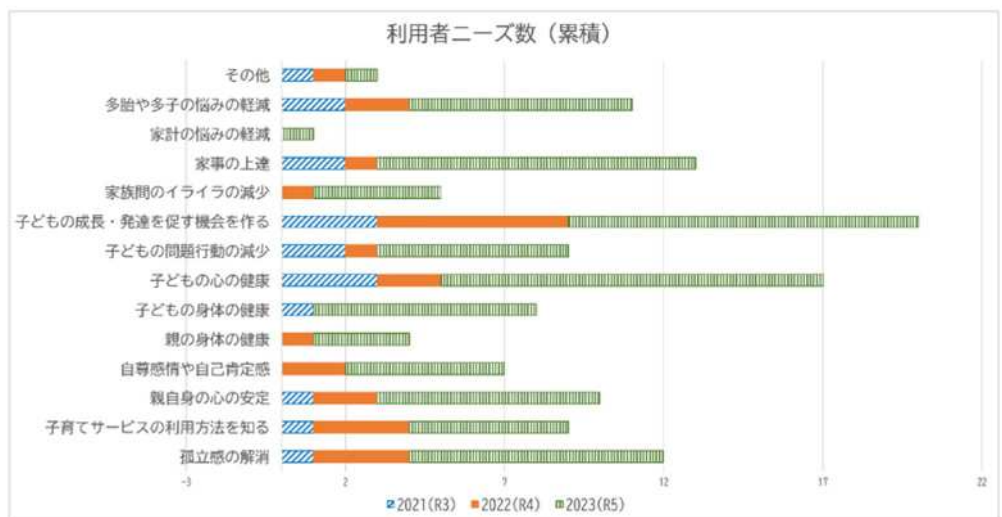
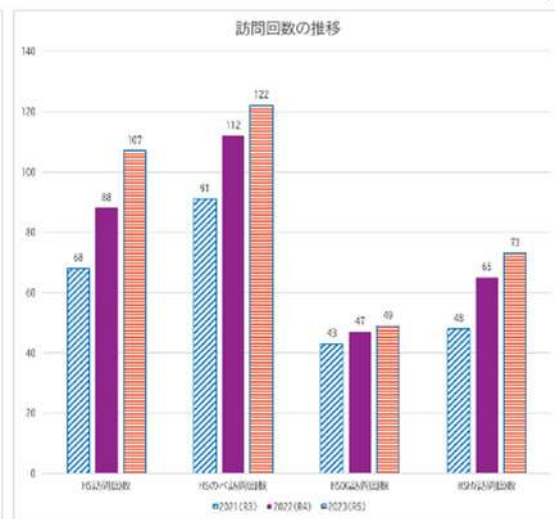
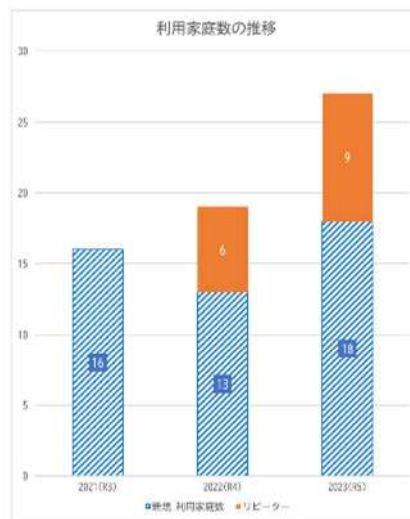
	している。また、自治体・NPO・民生員等の視察や研修も積極的に受け、中間支援組織として活動している。大学生・高校生・中学生のインターンや職場体験も受け入れている。これまでも多くの団体設立のサポートを行っている。
④活動の成果 (活動実績がある場合)	① 児童虐待防止活動 24 年前に起きた児童虐待死亡事件を風化させることなく、2 度と同じ事件を起こさないために、年 1 回イベントを開催。児童虐待防止月間に合わせて、11 月 16 日に担当の子育て支援課と協働開催。参加者数 1,588 人(出店者カウント+クイズラリー1,318+270) 来場者数はもっと多かったと感じます。出店 42 ブース、協賛 7 企業であり、このイベントがきっかけで社会福祉協議会への寄付をいただいた企業もあります。 出店者の皆さんには児童虐待防止のポスターの掲示をお願いし、他のイベントへの出店の際にも掲示をしていただき広域での児童虐待防止活動を行うことができた。    ② 家庭訪問型子育て支援事業「ホームスタート」 令和 5 年度はのべ 122 回の訪問を実施、40 時間の研修を修了した訪問ボランティアは 23 名、令和 6 年度は 5 名増え、28 名となった。ロールモデルとして他の自治体のホームスタート立ち上げの支援も行っている。利用者から「久しぶりに上の子としっかり関わって自分の気持ちが満たされた」という感想が聞かれた。ボランティアからも「自分も子どもが小さいときにスマイリーで話を聴いてもらえて助かった」「子育ての経験が誰かのために活かせてよかった」と支援される側から支援する側になる恩送りのバトンが引き継がれている。

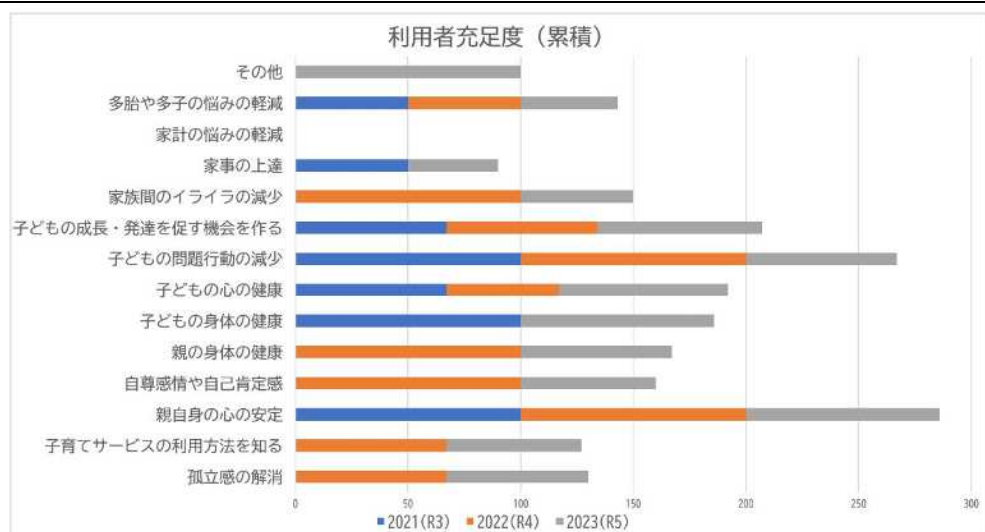


(ボランティア活動の様子)



(日本福祉大学保育自習の学生とクリスマス会)





- ③ 多文化子育てサロン「てくてく」外国ルーツ・障がい児家庭の支援
月 1 回年間 12 回の開催。家族での参加が増え、お父さんの活躍も多く見られるようになった。「他の保護者と話したり、スタッフに相談することができてとても助かった」「普段は見られない子供の様子を見ることができた」などの感想があった。初めて合った人と少しずつ慣れていく様子や、仲良くなり連絡先を交換する姿も見られた。
学校・保育園での不安や相談も多く、対象機関につなぐことも多い。インクルーシブダーツやモルックなど言語や年齢性別関係なく、コミュニケーションがとれるものでより効果的な居場所となっている。



（インクルーシブダーツを体験する様子）

- ④ ママサークル運営
毎週金曜日 10～15 時、年間 40 回程度開催。それとは別に年数回利用者主催でイベントを開催する。スタッフは招待してもらえる。
サークル開始時に 0 歳の子が中学生となり、乳幼児の世話をして、サークルの参加者が親戚のような雰囲気となっている。10 年以上運営しており、参加者が地域課題を感じ、ボランティアや有資格支援者に移行する事例が多く、子育て期から支援者として活動する事例も多い。利用は近隣の自治体からもあり、自治体を越えた活動となっている。また、参加者の子供が出生し、次の世代の子供が参加するようになった。



(ママたちの企画運営で行われるクリスマス会)

⑤ 家庭教育講座の企画運営・講師派遣

東海市では定員 20 名の講座を 4 回開催。武豊町では 5 回開催した。前半はバランスボール、アロマ、個性心理学、カラーセラピーなど、後半は地域をテーマに座談会。

講座に参加した当日だけではなく、その後の生活に家庭教育の視点を取り入れることができるように、日常の行動での視点を変えることを提案した。講座はリピーターも多く、質問の回答や地域の情報提供など、参加者が支援する様子が見られるようになった。



(「アロマセラピーで自分を知る」と見守り託児の様子)

⑥ おとなトこどもノゆるりサークルによる居場所事業

年 25 回の子供向けサークル活動を実施。体を動かす活動として近隣のスポーツ施設に出向いて畑での収穫作業をした。またバーベキュー、防災食の調理などをして参加した子供たちから「次はカフェメニューを考えて作りたい」と自発的に活動に関わる姿が見られた。また、不登校経験者の社会人や大学生から話を聴く会に参加した親子から「将来について話し合うきっかけになった」「その後子供が『学校に行ってもいいかな』と言うようになった」という反応があり、将来に対し前向きに取り組む様子が見受けられた。



(バーベキューは企画からすべてこどもが中心で大人がサポート)

- ⑦ おもちゃ図書館・セレモニー衣装の無料貸し出し
 拠点開所時は随時対応しています。
 リピーターや口コミでの利用が増え、子供の成長を感じながらお話をしたり、相談を受けたりする事業となっている。セレモニーの服が買えずに困っていたという家庭もあった。おもちゃ図書館では祖母の利用もある。預かっている時に来られて今時の子育て事情や、ご自身のお話もされ、ゆっくりと過ごす様子も見られた。子供の発達に不安がある方の相談では、おもちゃで遊んでいる様子などから状況が分かりやすく、支援につなげやすい場でもある。

- ⑧ 育児休業中の子育て支援・女性活躍推進事業
 年2クール6回の連続講座 第1 子育て休業中の女性が対象
 託児付き 20組(2回は父親も参加)
 仕事復帰に向けての支援事業
 ワークライフバランス(夢・仕事・家事・子育てのバランス)



(アルバム作り、バランスボール、パパと遊ぶ、夫婦で考える)



(託児の様子：この場がきっかけで保育士の資格を取った方も)

⑨ 拠点運営

20 年に渡る活動の中で、拠点運営は子育て中の女性にとって、大きな安心の場となっている。平日は 10～15 時に開所し、武豊町の子育てワンストップ窓口として運営。他に市民団体の立ち上げや運営の相談など中間支援としての役割も担っている。SNS を利用した相談も増えているが、受付後はほぼ対面での相談となる。自主財源事業となるが、公共はハードルが高く相談に行くことのできない保護者は多く、運営の必要性を感じている。

⑤活動財源
(複数チェック可能)

- ☐ 文部科学省補助事業（事業名： ）
- ☐ 文部科学省委託事業（事業名： ）
- ☐ 厚生労働省事業（事業名： ）
- ☒ 地方公共団体単独事業として実施
- ☒ 特段の予算措置はない（自主的に活動を実施）
- ☒ その他の支援により活動を実施
(具体的に：事業所からの賛助会費、補助金、助成金)